



福岡医発 181 号(総)
平成 22 年 4 月 17 日

各医師会長 殿
各代議員 殿

福岡県医師会
会長 横倉 義武
(公印省略)

会長辞任のお詫びと日医副会長就任の報告

謹啓 麗春の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2 月 20 日の福岡県医師会選挙代議員会において平成 22・23 年度の福岡県医師会長にご選任いただきながら、4 月 1 日に行われた日本医師会役員選挙で副会長に選任されましたので、県医師会長を辞する事といたしました。

今回の日医役員選挙について、少し詳しくご報告いたします。

今回の役員選挙は、昨年の政権交代後の日本医師会の方向性を問う重要な選挙でありました。社会の注目も高く、私は出来るなら政権に関わりなく、医師会は主体的な方針を立てるべきと考え、相争うことのない会長を選出できないか模索いたしました。

また全国の有能な医師が執行部に参画できるように、従来行われたキャビネット選挙はすべきでない事を主張してまいりました。

即ち、次期日医執行部には団結、継続、刷新の三つのキーワードを具現化できる執行部が望ましいことを全国の会長方に訴え、現職副会長を会長に推挙することで、日本医師会の団結を図れるのではないかと主張し、大方のご理解を得られた状況にありましたが、この構想は最後に頓挫し、現職副会長も辞任を表明されました。

この様な経緯の中で、私自身に日医副会長への出馬を九州各県会長からご要請をいただき、又竹嶋日医副会長から強いお勧めもあり、3 月 22 日に九州医師会連合会常任委員、次期会長会において出馬を決意いたしました。

選挙直前には、キャビネットを組まないとの事でしたが各会長候補陣営から推薦する副会長予定者、常任理事予定者の名簿が発表されました。実質キャビネット選挙になるかと心配をしましたが、4 月 1 日の選挙当日、議事運営委員会で代議員会議長からキャビネット選挙を今回からしないとの意見が強いので、会長選挙が終わっても副会長、常任理事の候補者は立候補取り下げを出来るだけしないで欲しいとの発言がありました。

会長選挙は稀にみる激戦で、ほぼ三分された得票となり、最多得票の原中茨城県医師会長が選出されました。8 人の立候補があった副会長選挙は、中川、横倉、羽生

小郡三井医師会より

会長 蒲池 壽
横倉県医師会長が日医副会長就任にともない日医副会長に専念される為、県医師会長を辞任されました。4月24日の県代議員会で会長の補欠選挙が実施されます。

田の三人が選出されました。

新しい日本医師会執行部はスタートしましたが、政権交代下、医療を巡る様々な問題があり、かつ診療報酬改定でも喧伝された医師間の対立構造是正の為にも、日本医師会が早急に団結しなければならないのは自明の事であります。この難しい状況の中で、県医師会長職との兼務は困難と考え、県医師会長を4月一杯で辞任する申し出をいたしました。

今後は日本医師会の役員として、福岡県医師会と共に医療が提供できる制度作りに邁進していきますので、今後ともご指導ご鞭撻いただきますようお願いをし、会長職辞任のお詫びと日本医師会副会長就任の挨拶とさせていただきます。

謹 白